

太陽

の

夢

2022年

7/17(日)・18(月・休)

上映+トークショー

小金井宮地楽器ホール小ホール

2016/フランス/63分/16:9/カラー 製作: KIRA B.M.FILMS 配給: ミストラルジャパン
監督/映像・特殊効果: パトリック・ボカノウスキー 音楽: ミシェール・ボカノウスキー

UN RÊVE SOLAIRE

un film de Patrick Bokanowski

『天使／L'ANGE』から34年、パトリック・ボカノウスキー監督が追い求めた至極の「光」とは？

光の彼方に 再び見たものは 『太陽の夢』日本初の限定公開

フランス実験映画の金字塔『天使／L'ANGE』が1982年に公開されてから34年、パトリック・ボカノウスキー監督の長編第二作として『太陽の夢』(UN RÊVE SOLAIRE)が2016年に完成し、アヌシー国際アニメーション映画祭やロッテルダム国際映画祭などで上映され、その執拗なまでの「光」のイメージへの探求が話題を集めた。

『天使／L'ANGE』では、特殊撮影やミニチュアとの合成技術などを駆使したスタジオワークによって「光」の圧倒的な造形美を創りあげたのに対して、本作では、花火、海岸で過ごす人々、馬に乗る男の遠景、列車からの木洩れ陽、監督自身の撮影風景、幻燈パフォーマンス、アニメーション、舞台劇、曙光と暁光、など、主にリアルなショットから構成された光と影が織りなす、フィルムとデジタルのハイブリットで卓越した映像美が全篇に展開する。

音楽は妻であり盟友のミシェル・ボカノウスキーが担当している



パトリック・ボカノウスキー

Patrick Bokanowski

1943年生まれ。パリ在住。映画監督・画家・写真家。1961年から写真、光学、暗室技術を学ぶ。1972年より撮影、アニメーション、ポストプロの全てに実験的技術を駆使した短編と長編映画を制作。処女作『白粉をぬる女』(1972)がソーロン映画祭で金賞、『朝の食事』(1974)はオーバーハウゼン実験映画祭などで受賞。長編映画第1作『天使／L'ANGE』(1982)はブニエールとダリの『アンダルシアの犬』の再来と評価され、日本でも2020年にデジタル版で再上映が実現する。『太陽の夢』(2016)は日本初上映になる。

小金井 宮地楽器ホール 小ホール

『太陽の夢』上映

2022年 7/17(日)・18(月・休) 19:00 上映 (開場 18:45)

料金 | 1,500円 予約 / 1,300円

会場 | 小金井 宮地楽器ホール 小ホール (JR 中央線 武蔵小金井駅南口 1分)

予約・問合せ | ミストラルジャパン info@mistral-japan.co.jp ☎ 042-380-8270

協力 | 日本映像学会アナログメディア研究会

アクセス



チケット



上映後トークショー



7/17 (日)
太田曜
(実験映画作家)



7/18 (月・休)
伊藤隆介
(映像作家・美術家)

シアター・イメージフォーラム

隔日上映 21:00～

2022年 7/30(土)・8/1(月)・8/3(水)・8/5(金) 『太陽の夢』

2022年 7/31(日)・8/2(火)・8/4(木)

『天使／L'ANGE』

www.ange-film.com